

1 部門目標

院外からの入院依頼症例の収容不能率を 10%程度に抑える。

2 業務体制・スタッフ

スタッフは 1 名が退職し、今井郁子医師は引き続き非常勤医師として勤務しました。常勤医師は岩松利至、鈴木康浩、大橋美香、石黒利佳、近藤丈太の 5 名に 10 月から高橋将也医師が加わり計 6 名となり、昨年度と変わりありませんでした。臨床心理士は藤嶋加奈、本田淳子（いずれも非常勤）および岩田倫佳（常勤）の計 3 名体制が維持されました。後期研修医としては、東京女子医大本院より篠原英美、猪井咲良の 2 名が研修を行いました。院内小児科からは須藤真奈実、松岡高弘、井上佳奈、宮本薫子、水谷乃梨および高橋一誠の計 6 名の後期研修医が研修を行うとともに、多湖孟祐および池田翔の 2 名が当科での勤務を行いました。院内初期研修医としては、武口航および安倍有紀の 2 名が研修を行いました。

3 業務実績

1) 入院数および成熟児重症例の増加

2023 年 1 月～12 月の入院数は 312 名であり、本年も 300 名を維持いたしました。うち院内出生は 219 名で全体の 70.2%であり、ほぼ例年通りでした。出生体重別では、1000g 未満が 15 名で前年の 18 名から 3 名減少し、1000～1499g は 18 名でほぼ例年並みでした。特筆すべきこととして、2023 年は死亡例を認めませんでした。気管内挿管での人工呼吸管理症例は 27 名で連年に比較して少なく、持続陽圧呼吸管理症例は 125 名であり、5 年連続で 100 名を上回りました。また 2021 年度より小児外科に光永哲也医師が着任したのに伴い、緊急症例への対応も含めて、新生児外科症例の手術もさらに少しずつ積み重ねております。また 2023 年も、東京女子医科大学附属足立医療センター新生児科長谷川久弥教授の往診による気管支鏡検査が行われ、新生児期発症の気道病変の管理向上に努めました。

2) 院外からの新生児入院依頼の 90.3%に対応

当科は例年入院のおよそ 70%を院内出生児が占めています。院内出生で入院を要する患児を他院へ搬送することはできませんので、その時々ベッド状況においてはどうしても院外からの入院依頼に対応できない場合があります。2023 年も院内出生児の入院は 219 名で 70.2%と例年通りでした。院外からの入院依頼は 103 件でありそのうちの 93 件に対応できたため対応率は 90.3%であり、前年の 55.2%から著明な改善を認めました。

しかしこれは院外からの入院依頼数が前年の 145 件から 103 件へと著減したことに因るものであり、受入数そのものの増加は 13 件でした。院外からの入院依頼数の減少からは、千葉市近隣での出生数の減少に因るものとも考えられます。昨今の日本での出生数の減少傾向を考えると、当科への院外からの入院依頼数もこの程度で横ばいで経過することも想定され、そうであるならば収容不能率を 10%程度に抑えていくことが可能と考えます。

2023年 入院状況

作成：2024/1/31

1) 総入院数 312 名 (前年比 102.9%)
*院内 219 名 (前年比 98.2%)

出生体重	入院数	死亡数
～999g	15	0
1000～1499g	18	0
1500～2499g	150	0
2500g～	129	0
合計	312	0

呼吸管理

	使用人数	使用日数	平均/日数	使用割合
人工呼吸器管理(IMV)	27	163	6.0日*①	8.7%②
CPAP,DPAP	125	1084	8.7日*①	40.1%②
サーファクタント	19			6.1%②

※①(日数/使用人数) ※②(使用人数/総入院数)

在胎	入院数	死亡数
22～24週	1	0
25～27週	12	0
28～32週	25	0
33～36週	133	0
37週～	141	0
不明(未受診)	0	0
合計	312	0

2) 入院依頼(院外より) 103 件 (前年比 111.5%)

① 新生児科入院 93 件
90.3% (入院/入院依頼)

救急車	93	*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って救急車にて当NICUIに入院した症例
自家用車	0	*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って自家用車にて当NICUIに入院した症例
新生児救急搬送(お迎え)	0	*出産施設ですでに出生している重篤な児を当院新生児医師と看護師が救急車で迎えに行きNICUIに搬送した症例
分娩立会+搬送	0	*新生児医師と看護師が救急車で出産施設に出向き、分娩に立ち会ったうえでNICUIに搬送した症例
三角搬送	0	*医師が救急車等で依頼元医療施設へ行き、新生児と同乗してほかの医療施設へ搬送した症例
合計	93	

② 受入不可 他院へ 10 件 (前年比 15.4%)
6.8% (当院満床/入院依頼)
1.0% (満床以外不可理由/入院依頼)

満床	7
小児科外科メインの病院へ	1
仮死 近医へ	1
ほか受入れ対応中	1

千葉市立 海浜病院 新生児科

4 1年間の総括

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の流行はほぼ収まりましたが、新生児科の入院数は本年も有意な増減なく例年通りでした。結果的に2020年からのコロナ禍において、当科の入院数は大きな影響を受けることはありませんでした。親御さんの面会に関しては、まだコロナ感染流行前の状態には戻っておりませんが、親子関係を育むという当科の特徴を鑑みて、臨機応変な対応を行うように努めております。
- ▶ 本年度も残念ながらスタッフ数の増員を図ることは出来ず、6名のままでした。当科のNICU病床数が21床であることを考えると、厳しい診療体制が続いております。
- ▶ 本年度は院外からの入院依頼数が前年比71%へ激減（145件から103件）したため、結果として院外からの依頼の90.3%に対応することができました。
- ▶ 2021年度の当院小児外科への小児外科専門医の着任に伴い、少しずつ症例を積み重ねることができ、緊急症例への対応も可能となってきました。

5 今後の目標

今後は院外からの入院依頼症例の収容不能率を10%未満に抑える目標が継続できるよう、医師の確保・育成に力を注ぎたいと考えています。